

独立行政法人
国際協力機構

ウズベクエネルギー電力公社
(State Joint Stock Company "Uzbekenergo")

ウズベキスタン国
タシケント火力発電所
近代化事業詳細設計調査

ファイナルレポート
(本文)

2004年1月

東電設計株式会社

序 文

日本国政府は、ウズベキスタン共和国政府の要請に基づき、同国のタシケント火力発電所近代化事業詳細設計調査を行うことを決定し、独立行政法人国際協力機構がこの調査を実施しました。

当機構は、2002年9月から2003年11月まで5回にわたり東電設計株式会社三賢憲治氏を団長とし、同社の団員から構成される調査団および株式会社グローバル企画の技術審査団員を現地に派遣しました。

調査団は、ウズベキスタン国政府関係者と協議を行うとともに、現地調査を実施し、帰国後の国内作業を経て、ここに本報告書完成の運びとなりました。

この報告書が、タシケント火力発電所の近代化により、同国の電力安定供給ならびに環境改善に寄与するとともに、両国の友好親善の一層の発展に役立つことを願うものです。

終わりに、調査のご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

2004年1月

独立行政法人国際協力機構
理事 伊沢 正

独立行政法人国際協力機構
理事 伊沢 正 殿

伝 達 状

ウズベキスタン国タシケント火力発電所近代化事業詳細設計調査に関する最終報告書をここに提出申し上げます。

本報告書は、同国タシケント火力発電所の既存発電設備の一部を最新鋭ガスタービンコンバインドサイクル発電設備に置き換えることにより近代化を図ると共に、同発電所の既存設備の維持管理補修計画を策定し、今後の効率的かつ経済的な運営を提言するものであります。

同発電所の近代化が電力供給の安定化、環境改善ならびに地域開発に貢献するとともに、本報告書における提言が、今後の電力開発計画に取り入れられることにより同国全体の民生向上のみならず産業の発展にも大きく寄与するものと信ずるところであります。

この機会をお借りいたしまして、貴機構、外務省、経済産業省および国際協力銀行各位のご支援及びご指導に心から感謝申し上げます。

2004年1月

ウズベキスタン国
タシケント火力発電所
近代化事業詳細設計調査団
団長 三賢 憲治



タシケント火力発電所全景



タシケント火力発電所全景（事務所棟から見る）



既設ボイラ設備（右から 12 号機、11 号機）



既設蒸気タービン設備



既設発電機



既設中央操作室